# その意識と行動

**NEXT OLD** 

**NEW** ¥ **OLD** 

代後半から70代前半) ときにそのハザマとなる60代前半 (50代)」と「 します

現在

 $\widehat{6}$ 

何なのでしょうか? の先の超高齢社会を見据えた研究を行う 公益財団法人ハイライフ研究所では

また、

齢社会はどのように変わるのでしょうか?

高齢者にとっての幸せや生きがいとは、

65歳以上の高齢者の仲間

02020

ら現在

の50代は、

ŋ

をし始めます

今の50代が高齢者の

間

りをすると超高

調査概要を参照)。

生活意識調査を実施いたしました。 て50代から70代前半男女の生活行 その調査結果の 部を連載コラム

や行動をお伝えいたします。 ていきたいと考えていますので、ぜひご一 て感じた生きるためのヒン な読み解きや、 一読下

「仮説的」

# 公益財団法人ハイライフ研究所

<ハイライフ研究所「次世代高齢者調査」調査概要>

それぞれの意

特徴なども織り込みながら、

- ①調査対象 東京30km圏に居住する満51歳~75歳の男女
- ②標本数(有効回収数)500 51~55歳·56~60歳·61~65歳·66~70歳·71~75歳 男女計各100
- ③標本抽出法 エリアサンプリング法 ④調査方法 留置法(訪問調査) ⑤調査時期 平成28年10月~11月

# 次世代シニアと現在形シニア

その意識と行動

NEXT OLD ¥ NEW ⊙LD



どつちだ。

# 第八回 「老後」という名の 明日はどっちだ。



◇◆調査対象・言葉の定義◆◇ 次世代シニア(51歳から60歳)

現在形シニア(66歳から75歳)

- ■次世代シニア男性の老後意識は「忙しさからの解放・自由」。現在形シニア男性は「今の生活の延長上で生活を楽しむ」。
- ■次世代シニア女性の老後意識は「動けるうちは働くつもり」。 現在形シニア女性では「友人には恵まれているほう」。
- ■現在形シニア女性の老後は「友人と過ごす時間が楽しみ」。 同男性は「夫婦の時間を楽しみたい」。意識ギャップ有り。
- ■現在形シニアは年金も含め老後の家計にやや楽観的な面も。
- ■次世代シニア女性は「<u>生涯仕事</u>を続ける/続けられる」。 現在形シニア女性は「<u>近所や趣味</u>の友人・仲間がいる」。 女性は深くて広い交友関係を基地にして老後を過ごす?
- ■「高齢者とは」・・・次世代シニアにとっては『70代前半から』 現在形シニアにとっては『70代後半から』 「老後の人」を年齢でイメージすることは難しくなっている。
- ■充実期・次世代シニアは20·30代、現在形シニアは40·50代。 戻れるならば戻りたい年代、それは「20代の頃」。
- ■男性は女性ほどには「終活」の意味を知らない。 現在形シニアになると「家族に伝えるべきこと」を考える。 考えてはいるが実行に至らない終活も多い現在形シニア。
- ■家(終の棲家・片付け)で始まり、家(墓地・霊園)で終わる。 どこへ行くか、どこへ帰るか。人生は「居場所」を探し求める旅。





# 第八回「老後」という名の明日はどっちだ。

連載第八回は次世代高齢者調査より「老後」に関する意識について「年齢観」「終活」などの話題も交え、「現在形シニア(66歳~75歳)と次世代シニア(51歳~60歳)の比較」、「男性と女性の比較」を軸にご報告をいたします。彼らの「老後」はどこへ向かうのか、その意識を中から探っていきます。

### 1. 老後に関する意識

①男性•年代間比較

# 次世代シニア男性の老後意識は「忙しさからの解放・自由」。現在形シニア男性は「今の生活の延長上で生活を楽しむ」。

まず男性の回答結果からみていきましょう。下の一覧表は予め提示した45項目の「老後に関する意識」の中からあてはまるものを複数選択してもらい集計した上位ランキング表です。

年代を問わず「自由な時間を楽しみたい」「家族と楽しく暮らしたい」の二項目が1、2位を占めいずれも50%以上のスコアとなっています。そして3位以降はやや両者の意識の差を感じさせる項目も現れてきます。年代間で10%以上の差がみられた意識は以下のようになります。

- ■「次世代シニア」のほうが「現在形シニア」より高い■
  - 忙しさから解放されて自由にやりたい(12%差)
- ■「現在形シニア」のほうが「次世代シニア」より高い■
  - ・今の生活の延長上で楽しみたい(21%差)・健康維持に繋がることはできるだけやる(18%差)
  - 人並みであればよい(13%差)

現在形シニアは、今を老後と意識するか否かは別にしても定年、年金受給開始年齢などの区切りを通過してきた中で改めて「健康づくり」と「楽しむこと」の大切さを実感しているものと思われます。

「老後」に関する意識についてあてはまるもの(MA)

	男性							
	51歳~60歳		66歳~75歳					
1	自由な時間を楽しみたい	81	自由な時間を楽しみたい	71				
2	家族と楽しく暮らしたい	55	家族と楽しく暮らしたい	60				
3	子供の成長や孫との時間は楽しみ	42	のんびり出来ることが幸せ	43				
4	動けるうちは働くつもり	41	人並みであればよい	43				
5	のんびり出来ることが幸せ	39	夫婦の時間を楽しみたい	42				
6	夫婦の時間を楽しみたい	39	子供の成長や孫との時間は楽しみ	41				
7	頼まれたこと(役割・仕事)には応えたい	33	健康維持に繋がることはできるだけやる	39				
8	忙しさから解放されて自由にやりたい	32	今の生活の延長で楽しみたい	37				
9	人並みであればよい	30	動けるうちは働くつもり	37				
10	健康づくりのために運動などを始める	28	年老いても役立てるのは幸せなこと	36				
11	友人には恵まれているほうだ	27	友人には恵まれているほうだ	34				
12	年老いても役立てるのは幸せなこと	27	将来のことはわからないから今日を頑張る	29				
13	身体のためにも散歩やジム通いをする	25	仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	28				
14	仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	22	頼まれたこと(役割・仕事)には応えたい	27				
15	将来のことはわからないから今日を頑張る	22	期待されている間は頑張りたい	25				
16	感動や刺激のある暮らしがしたい・	21	昔の仲間と再会したり、再び親交を深める	25				
	健康維持に繋がることはできるだけやる	21						

色分け

50%以上

40%台

30%台

20%台

10%台



# 次世代シニア女性の老後意識は「動けるうちは働くつもり」。 現在形シニア女性では「友人には恵まれているほう」。

では女性の場合はどうでしょう。年代を問わず1位は「自由な時間を楽しみたい」で7割前後に及びます。 2位以下をみると、次世代シニアが「家族と楽しく暮らしたい」のに対して「友人には恵まれているほう」 「仲間や友人と過ごす時間が楽しみ」と友人との交流が家族を凌ぐほど意識されています。年代間で10% 以上の差がみられた意識は以下の通りです。

- ■「次世代シニア」のほうが「現在形シニア」より高い■
  - 動けるうちは働くつもり(21%差)・健康づくりのために運動などを始める(16%差)・夫婦の時間を楽しみたい(24%差)
- ■「現在形シニア」のほうが「次世代シニア」より高い■
  - ・友人には恵まれているほう(21%差)・将来のことはわからないから今日を頑張る(15%差)
  - ・会合や集まりに呼ばれることはいやでない(14%差)・家族に迷惑をかけないように計画を練る(13%差)・挑戦し続けたい自分がいる(13%差)「仲間や友人と過ごす時間が楽しみ(10%差)

「老後」に関する意識についてあてはまるもの(MA)

	女性							
	51歳~60歳	66歳~75歳						
1	自由な時間を楽しみたい	76	自由な時間を楽しみたい	67				
2	家族と楽しく暮らしたい	56	友人には恵まれているほうだ	62				
3	仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	46	仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	56				
4	年老いても役立てるのは幸せなこと	45	家族と楽しく暮らしたい	52				
5	のんびり出来ることが幸せ	41	年老いても役立てるのは幸せなこと	49				
6	動けるうちは働くつもり	40	子供の成長や孫との時間は楽しみ	44				
7	友人には恵まれているほうだ	38	のんびり出来ることが幸せ	44				
8	頼まれたこと(役割・仕事)には応えたい	37	将来のことはわからないから今日を頑張る	42				
9	子供の成長や孫との時間は楽しみ	37	今の生活の延長で楽しみたい	41				
10	身体のためにも散歩やジム通いをする	36	家族に迷惑をかけないように計画を練る	40				
11	今の生活の延長で楽しみたい	35	人並みであればよい	36				
12	夫婦の時間を楽しみたい	32	健康維持に繋がることはできるだけやる	35				
13	健康維持に繋がることはできるだけやる	32	頼まれたこと(役割・仕事)には応えたい	32				
14	人並みであればよい	32	身体のためにも散歩やジム通いをする	32				
15	健康づくりのために運動などを始める	30	会合や集まりに呼ばれることはいやではない	30				
16	生活維持のための蓄えをして備える	29	仕事や子育てが終わって自分の世界を楽しむ	26				

③男女比較

# 現在形シニア女性の老後は「友人と過ごす時間が楽しみ」。同男性は「夫婦の時間を楽しみたい」。意識ギャップ有り。

- ■次世代、現在形シニア共に「女性」のほうが高い■(数値差は左が次世代・右が現在形シニア)
  - ・仲間や友人と過ごす時間が楽しみ(24%差・28%差)・友人には恵まれているほう(11%差・28%差)・家族に迷惑をかけないように計画を練る(17%差・25%差)
- ■次世代シニアの中で「女性」のほうが高い■
  - 今の生活の延長で楽しみたい(19%差)・家族に迷惑をかけないように計画を練る(17%差)
- ■次世代シニアの中で「男性」のほうが高い■
  - ・忙しさから解放されて自由になりたい(11%差)
- ■現在形シニアの中で「男性」のほうが高い■
- <u>・夫婦の時間を楽しみたい(23%差)</u>・動けるうちは働くつもり(18%差) こうして男女の意識の差をみると、女性のほうが友人との交流を重視し、将来に対 しても目を逸らさず考えているように思えます。



### 2. 「老後」の現状や今後の見通し

①男性•年代間比較

# 現在形シニアは年金も含め老後の家計にやや楽観的な面も。

次に「老後の現状や見通し」の回答を男性のものからみていきましょう(45項目からあてはまるもの を複数選択)。下のランキング表をご覧いただくとわかるように、年代を問わず「頼りになるのはやはり 妻だと思う」と「妻とはこれからも上手くやれると思う」が1、2位を占めています。次頁の女性の回答 が同様の傾向か気になるところですが、ここでは年代間(次世代と現在形シニア)を見比べてみましょう。 年代間で10%以上の差がみられた項目は下記の通りです。

- ■「次世代シニア」のほうが「現在形シニア」より高い■
  - 学生時代からの友人がいる(15%差)
- ■「現在形シニア」のほうが「次世代シニア」より高い■
  - 余裕はないが年金も含め困らないと思う(26%差)
  - ・老後は経済的には困らないと思う(17%差)
  - ・趣味を通じて知り合った仲間がいる(16%差)
  - すでに大病も経験したが何とかなっている(15%差)
  - 頼りになるのはやはり妻だと思う(13%差)
  - ずっと続けている趣味がある(11%差)
  - 妻とはこれからも上手くやれると思う(10%差)

次世代シニアにおいて「学生時代からの友人がいる」が高い理由として考えられるのは50代を迎える 前後から活発になる同窓会などでのつきあいの再開、それと逆に現在形シニアにおいて友人との死別が増 えるなど、年代要因によるものが多いのではないでしょうか。現在形シニアの方が高い項目の中で同様に 年代要因(=加齢により次世代シニアも同様の傾向となりそうな事柄)と思われるのは「趣味を通じて知 り合った仲間がいる」「大病も経験したが何とかなっている」が考えられます。「余裕はないが年金も含 め困らないと思う」「老後は経済的に困らないと思う」といった項目については、国の社会保障制度や政 策の動きにより、次世代シニアが将来、同様の見通しを得られるのかは不透明といえましょう。

里性

「老後」の現状や今後の見通し(MA)

	第一位,一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一							
	51歳~60歳	66歳~75歳						
1	頼りになるのはやはり妻だと思う	60	頼りになるのはやはり妻だと思う	73				
2	妻とはこれからも上手くやれると思う	43	妻とはこれからも上手くやれると思う	53				
3	学生時代からの友人がいる	42	妻とは何でも話せる関係である	45				
4	将来が楽しみな子ども・孫がいる	41	将来が楽しみな子ども・孫がいる	43				
5	自分を必要とする家族がいる	39	家族も大きな病気はない	41				
6	家族も大きな病気はない	37	余裕はないが年金も含め困らないと思う	41				
7	妻とは何でも話せる関係である	37	大好きな趣味がある	39				
8	親友と呼べる友人がいる	35	ずっと続けている趣味がある	38				
9	大好きな趣味がある	32	経済的には何とかなると思っている	38				
10	比較的よく会う楽しい仲間がいる	29	自分を必要とする家族がいる	37				
11	経済的には何とかなると思っている	29	比較的よく会う楽しい仲間がいる	36				
12	ずっと続けている趣味がある	27	趣味を通じて知り合った仲間がいる	32				
13	妻とは共通の友人がいる	25	親友と呼べる友人がいる	32				
14	仲間や友人と過ごす時間が楽しみ	25	ある程度の病気や怪我には備えているつもり	31				
15	家族同然のペットがいる	25	生涯仕事を続ける/続けられる	28				
16	お互いに助け合える友人がいる	20	妻とは共通の友人がいる	27				
	家族ぐるみで付き合う人たちがいる	20	学生時代からの友人がいる	27				
色分:	<del></del>		·	·				

50%以上

40%台

30%台

20%台 10%台



# 次世代シニア女性は「生涯仕事を続ける/続けられる」。 現在形シニア女性は「近所や趣味の友人・仲間がいる」。

次は女性の「老後の現状や見通し」の回答結果をみていきましょう。

「比較的よく会う楽しい仲間がいる」は年代を問わず1位。「自分を必要とする家族がいる」も共通で上位にランクされています。年代間で10%以上の差がある項目は以下の通りです。

- ■「次世代シニア」のほうが「現在形シニア」より高い■
  - ・生涯仕事を続ける/続けられる(12%差)・学生時代からの友人がいる(10%差)
- ■「現在形シニア」のほうが「次世代シニア」より高い■
  - ・近所に仲間や友人がいる(27%差)・趣味を通じて知り合った仲間がいる(24%差)
  - ・ずっと続けている趣味がある(23%差)・余裕はないが年金を含めて困らないと思う(22%差)
  - 大好きな趣味がある(21%差)・近くで世話してくれる親族がいる(19%差)
  - ある程度の病気や怪我には備えているつもり(14%差)他 7項目

次世代シニアのほうが多い「生涯仕事を続ける/続けられる」には、男女雇用機会均等法施行前後の世代であることとの関連をうかがわせます。「近所に仲間や友人がいる」が現在形シニアに多いのには現状7割の人が「収入を伴う仕事をしていない」こととの関係をうかがわせます。

「老後」の現状や今後の見通し(MA)

	女性						
	51歳~60歳	66歳~75歳					
1	比較的よく会う楽しい仲間がいる	63	比較的よく会う楽しい仲間がいる	62			
2	自分を必要とする家族がいる	55	親友と呼べる友人がいる	59			
3	学生時代からの友人がいる	52	将来が楽しみな子ども・孫がいる	55			
4	頼りになるのはやはり夫だと思う	49	近所に仲間や友人がいる	55			
5	親友と呼べる友人がいる	48	自分を必要とする家族がいる	54			
6	将来が楽しみな子ども・孫がいる	45	大好きな趣味がある	43			
7	夫とはこれからも上手くやれると思う	39	趣味を通じて知り合った仲間がいる	42			
8	家族も大きな病気はない	38	学生時代からの友人がいる	42			
9	お互いに助け合える友人がいる	32	経済的には何とかなると思っている	42			
10	経済的には何とかなると思っている	32	家族も大きな病気はない	41			
11	夫とは何でも話せる関係である	30	余裕はないが年金も含め困らないと思う	40			
12	近所に仲間や友人がいる	28	ずっと続けている趣味がある	38			
13	家族同然のペットがいる	24	お互いに助け合える友人がいる	37			
14	生涯仕事を続ける/続けられる	23	頼りになるのはやはり夫だと思う	36			
15	大好きな趣味がある	22	夫とはこれからも上手くやれると思う	34			
16	好きな人との時間をこれからも大事にする	21	夫とは何でも話せる関係である	31			
	夫とは共通の友人がいる	21					

③男女比較

# 女性は深くて広い交友関係を基地にして老後を過ごす?

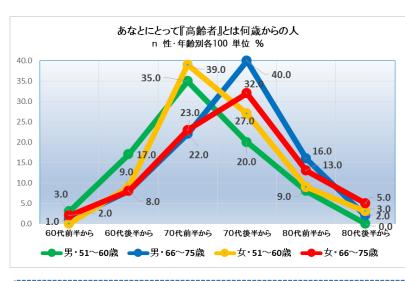
- ■次世代、現在形シニア共に「女性」のほうが高い■(数値差は左が次世代・右が現在形シニア)
  - ・<u>親友と呼べる友人がいる</u>(13%差・27%差)・近所に仲間や友人がいる(10%差・31%差)
  - ・学生時代からの友人がいる(10%差・15%差)
- ■次世代シニア、現在形シニア共に「男性」のほうが高い■
  - 頼りになるのはやはり妻(夫)だと思う(11%差・37%差)
- ■現在形シニアの中で「男性」のほうが高い■
  - ・妻(夫)とはこれからも上手くやれると思う(19%差)
- ■現在形シニアの中で「女性」のほうが高い■
  - ・近くで世話してくれる親族がいる(15%差)

老後意識と同様に女性のほうが深くて広い交友関係を持ち、夫が妻を頼りにする程には 妻は夫を頼りにしない傾向がみえます。



①「高齢者」とは~年齢イメージ・どんな人か

# 「高齢者とは」・・・次世代シニアにとっては『70代前半から』 現在形シニアにとっては『70代後半から』

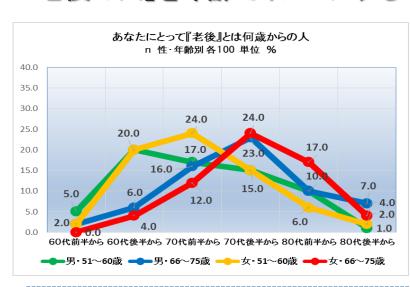


一般的な定義とは別に「高齢者」「老後」は何歳から、またどのような人があてはまると思うか聞きました。まず「高齢者」からみると、男女を問わず、次世代シニアでは「70代前半から」、現在形シニアでは「70代後半から」、現在形では「70代後半」、現在形では「70代前半」という結果となりました。高齢者の公の定義となる「65歳以上」に含まれる現在形シニアには未だ自分は高齢者ではないと考える人が多く存在するということでしょう。なおグラフには示していませんが「高齢者」の年齢イメージが無回答だった人は各性・年齢層とも10%台にとどまっていますが、次の「老後」では、30%台と高くなります。

年齢以外で「高齢者」にどのような人があてはまるかの選択肢の中では「自ら老いを自覚した時から」「生活する上で介護や補助を要する老人」「年金受給者」が10%前後でやや高い程度で、「仕事を終えた人」「定年を迎えた人」「子育てを終えた人」「社会との関わりが薄れた人」はごく僅かでした。

②「老後」とは~年齢イメージ・どんな人か

# 「老後の人」を年齢でイメージすることは難しくなっている。



「老後」は何歳からかの回答結果を示すのが左のグラフです。上の「高齢者」グラフと目盛の取り方は一緒ですが、ご覧のように小さな山の折れ線となっています。①のコメントで触れたように各性・年齢層とも30%台が無回答で、この層が最も多いということになります。もはや「老後」を年齢で語ることになります。もはや「老後」を年齢で語ることになりに、無回答以外では、次世代シニア男性は発しくなっているということでしょう。ちなみに、無回答以外では、次世代シニア男性はアでは男女共に70代後半が最も高くなっており、ほぼ「高齢者」と似た傾向を示しています。生き方の多様化に伴い「老後」という言葉は、以前より漠たる、共有し難いイメージになりつつあるのではないかと感じました。

年齢以外の「老後」イメージの選択肢の中では「自ら老いを自覚した時から」が全体では約14%と高く、「年金受給者」が続きます。「高齢者」イメージとやや異なるのが「定年に関わらず仕事を終えた人」が約9%とやや存在感を高めます。「仕事をやめたら老いを自覚するようになった」、「老いを自覚したので仕事をやめた」。どちらもありそうな事ですが、その先に明るい人生を描きたいものです。

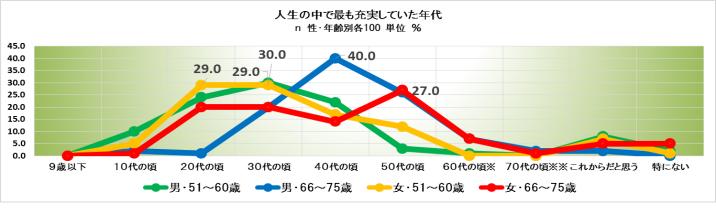


4. 最も充実していた(している)時代、戻りたいと思う頃

①最も充実していた(している)時代

# 充実期・次世代シニアは20・30代、現在形シニアは40・50代。

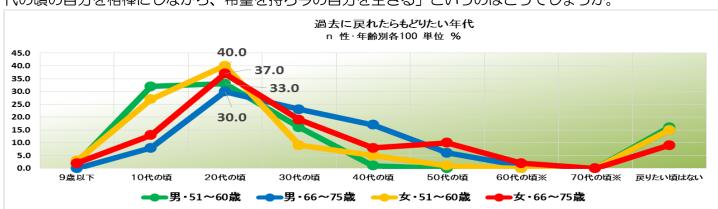
「あなたの人生の中で最も充実していた(している)と感じる時代(年代)はいつですか」と問われたら、あなたはいつとお答えになりますか?ご自分の人生に思いを馳せながら次の調査結果をご覧下さい。次世代シニアは男女ともに「20代の頃」「30代の頃」にピークがあります。若手から中堅に至る時期の「仕事の充実期」、結婚、子育てといった「家族形成の充実期」などが想像できます。一方で現在形シニアの場合、男性は「40代の頃」、女性は「50代の頃」がピークとなります。男性の「40代」は仕事のリーダーとして辣腕をふるい大きな仕事を成し遂げたことへの思いがあるのかもしれません。女性の「50代」は仕事の充実、子育てが終わった開放感、趣味などを通じた交流の充実、などが思い浮かびます。50代は次世代シニアにとっては現在進行形の時期。後で振り返って充実の50代だったと思える日々を過ごすことを願ってやみません。



②戻りたいと思う頃

# 戻れるならば戻りたい年代、それは「20代の頃」。

「あなたが過去に戻れるとして戻りたいと思う時期はありますか、あるとしたらいくつ位の頃ですか」という質問に対しては、次世代シニア、現在形シニア、男女共通に「20代の頃」が最も高いスコアを示しました。「充実していた年代」が開花する準備期、様々な人生の可能性を秘めていたあの頃、体力・気力に満ちていた、楽しかった、恋をした、子どもが生れた、何を着ても似合っていた、仲間とつるんで遊んでいた、初めて新規の仕事が獲れた、とにかく若かった・・・様々な思いが想像できます。そして多くの人にとってこの結果は意外なものではないと思います。しかし、ここには「老後」を肯定的に捉え、これからを楽しく生きるヒントがあるようにも思えます。ただ過去を懐かしむのではなく、若いふりをするのでもなく「20代の頃の自分を相棒にしながら、希望を持ち今の自分を生きる」というのはどうでしょうか。

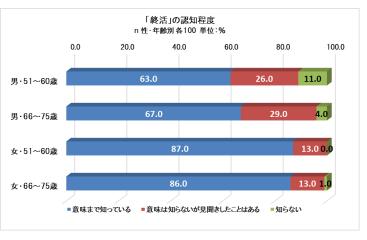




# 5. 「終活」について

①「終活」の認知とイメージ

# 男性は女性ほどには「終活」の意味を知らない。



「近頃『終活』(人生の最後に向けて生前に準備すること)という言葉が使われるようになっていますが、あなたはご存知でしたか」という質問に対して、男女問わず、ほとんどの人が「見聞きしたことがある」と答えました。

ただし「意味まで知っている」人は女性で85%を超えるのに対して、男性では6割台に止まる結果となりました。1の項(老後に関する意識)でも「家族に迷惑をかけないように計画を練る」という意識は女性のほうが高く、男女の意識差が見て取れましたが、「終活」でも男性の相対的関心の低さがうかがえます。

誰にでも訪れる「老い」や「死」ですが問題に直面するまで男性は怖がりで目を背けたがる、という話を聞いたことがあります。腑に落ちる話です。

②生前の準備で考えたことがあること

# 現在形シニアになると「家族に伝えるべきこと」を考える。

「終活(生前の準備)」として一般にあげられる事柄を14項目提示して「今までに考えたことがあるもの」を複数回答で選択してもらいました。詳細は次頁のランキング表に示しますが、ここでは、次世代シニアと現在形シニアで差の大きかった事柄を挙げます。世代というより年代による差と思われます。

### 【男性】

次世代シニアのほうが高かった事柄は「ひとつもない(29%差)」でした。

現在形シニアのほうが高かった事柄は「預金など財産に関する事を家族に伝える(27%差)」「延命医療の方針などを身近な人に伝える(26%差)」「葬儀の希望や費用等を家族や身近な人に伝える(25%差)」などでした。

### 【女性】

次世代シニアのほうが高かった事柄は「ひとつもない(14%差)」でした。

現在形シニアのほうが高かった事柄は「生前贈与や遺産相続の準備をする(26%差)」「遺言書を書く・公証役場に届ける(21%差)」「延命医療の方針を身近な人に伝える(20%差)」などでした。

③生前の準備で実際に行っていること

# 考えてはいるが実行に至らない終活も多い現在形シニア。

「実際に行った(行っている)こと」を②項同様に挙げると以下の通りです。 【男性】

次世代シニアのほうが高かった事柄は「ひとつもない(28%差)」でした。

現在形シニアのほうが高かった事柄は「墓地霊園を選ぶ・探す(18%差)」「預金など財産に関することを家族に伝える(15%差)」「万一の時を考え家の中のものを片付ける(13%差)」などでした。

## 【女性】

次世代シニアのほうが高かった事柄は「ひとつもない(14%差)」でした。

現在形シニアのほうが高かった事柄は「預金など財産に関することを家族に伝える

(10%差)」「墓地霊園を選ぶ・探す(10%差)」でした。

現在形シニアにとって「生前の準備」は「気にはなっているが実行に至らない」 というケースが多く見受けられました。



生前贈与や遺産相続の準備をする

その時に向けた心構えを作るために書籍

を読んだり、宗教・信仰に関連した行動を

18 遺言書を書く・公証役場に届ける

6 「エンディングノート」を作成する

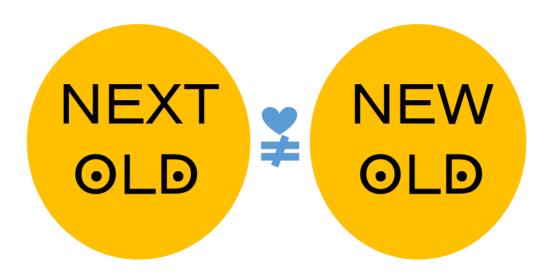
# 家(終の棲家・片付け)で始まり、家(墓地・霊園)で終わる。 どこへ行くか、どこへ帰るか。人生は「居場所」を探し求める旅。

次世代と現在形シニアの差に着目しながらみてきた「終活」ですが、最後に回答率の高い順に並べたランキング表をみて下さい。「終の棲家を探す・決める」「万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨てられないものを片付ける」と住居に関わる事柄が上位で目立ちます。そして「墓地・霊園を選ぶ・探す」もいわばその後の「住まい探し」。直接的な意味でも「居場所」探しは重要なテーマといえましょう。そして「人生は居場所を捜し求める旅」・・。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

7	そして「人生は店場所を接し来める脈」・・。								
<	表> 「終活」で考えだ 「終活」で考えたことがある事柄	たこ	とがある事柄			「終活」で実際に行っている(行ったことがある			丙
男性				男性					
	51歳~60歳	%	61歳~75歳	%		51歳~60歳	%	61歳~75歳	%
1	ひとつもない	67	万一の時を考え家の中にあふれるもの、	58	1	ひとつもない	66	ひとつもない	38
2	終の棲家を探す・決める	43	捨てられないものを片付ける 最期を迎える時の備えに預金など財産に	54	2	終の棲家を探す・決める	15	終の棲家を探す・決める	25
2	万一の時を考え家の中にあふれるもの、	40	関することを家族や身近な人に伝える 終の棲家を探す・決める	51	3	万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨 てられないものを片付ける	9	墓地・霊園を選ぶ・探す	23
3	捨てられないものを片付ける 最期を迎える時の備えに預金など財産に		葬儀の希望や費用・内容などをあらかじ		4	墓地・霊園を選ぶ・探す	5	万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨 てられないものを片付ける	22
4	関することを家族や身近な人に伝える	27	め家族や身近な人に伝える	40	5	最期を迎える時の備えに預金など財産に関することを家族や身近な人に伝える	4	最期を迎える時の備えに預金など財産に関することを家族や身近な人に伝える	19
5	墓地・霊園を選ぶ・探す	17	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療の方針などを身近な人に伝える	39	6	生前贈与や遺産相続の準備をする	3	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療 の方針などを身近な人に伝える	11
6	生前贈与や遺産相続の準備をする	16	ひとつもない	38	7	その時に向けた心構えを作るために書籍を 読んだり、宗教・信仰に関連した行動を行う	3	葬儀の希望や費用・内容などをあらかじめ 家族や身近な人に伝える	10
7	葬儀の希望や費用・内容などをあらかじ め家族や身近な人に伝える	15	生前贈与や遺産相続の準備をする	35	8	自分が生きてきた年月をふりかえり自分史 やエピソードを記録する	2	生前贈与や遺産相続の準備をする	9
8	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療の方針などを身近な人に伝える	13	墓地・霊園を選ぶ・探す	33	9	遺言書を書く・公証役場に届ける	2	自分が生きてきた年月をふりかえり自分史 やエピソードを記録する	2
9	余分な不動産を売却するなど処分する	8	遺言書を書く・公証役場に届ける	20	10	余分な不動産を売却するなど処分する	2	遺言書を書く・公証役場に届ける	2
10	自分が生きてきた年月をふりかえり自分	7	「エンディングノート」を作成する	18		後継者、受け継ぐ人がいない事業・商売を清 算する	2	余分な不動産を売却するなど処分する	2
	史やエピソードを記録する		27,1271 13211,770			病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療 の方針などを身近な人に伝える	2	信託銀行などの金融機関に相談する	2
	「エンディングノート」を作成する			女性					
	遺言書を書く・公証役場に届ける	7				51歳~60歳	%	61歳~75歳	%
女性					1	ひとつもない	50	万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨 てられないものを片付ける	36
	51歳~60歳	%	61歳~75歳	%	2	万一の時を考え家の中にあふれるもの、捨 てられないものを片付ける	31	ひとつもない	36
1	万一の時を考え家の中にあふれるもの、 捨てられないものを片付ける	71	万一の時を考え家の中にあふれるもの、 捨てられないものを片付ける	87	3	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療 の方針などを身近な人に伝える	14	墓地・霊園を選ぶ・探す	21
2	ひとつもない	50	最期を迎える時の備えに預金など財産に 関することを家族や身近な人に伝える	65	4	墓地・霊園を選ぶ・探す	11	最期を迎える時の備えに預金など財産に関することを家族や身近な人に伝える	20
3	最期を迎える時の備えに預金など財産に 関することを家族や身近な人に伝える	47	終の棲家を探す・決める	51	5	終の棲家を探す・決める	10	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医療 の方針などを身近な人に伝える	14
4	終の棲家を探す・決める	40	病気療養で困難な時を迎えた際の延命医	50	6	最期を迎える時の備えに預金など財産に関することを家族や身近な人に伝える	10	終の棲家を探す・決める	12
E	葬儀の希望や費用・内容などをあらかじ	30	療の方針などを身近な人に伝える 葬儀の希望や費用・内容などをあらかじ	48	7	葬儀の希望や費用・内容などをあらかじめ 家族や身近な人に伝える	7	葬儀の希望や費用・内容などをあらかじめ 家族や身近な人に伝える	10
3	め家族や身近な人に伝える 病気療養で困難な時を迎えた際の延命医		め家族や身近な人に伝える	.0	8	その時に向けた心構えを作るために書籍を読んだり、宗教・信仰に関連した行動を行う	2	生前贈与や遺産相続の準備をする	4
6	療の方針などを身近な人に伝える	30	生前贈与や遺産相続の準備をする	44	9	生前贈与や遺産相続の準備をする	1	自分が生きてきた年月をふりかえり自分史 やエピソードを記録する	2
7	墓地・霊園を選ぶ・探す	25	ひとつもない	36	10	自分が生きてきた年月をふりかえり自分史 やエピソードを記録する	1	「エンディングノート」を作成する	2
8	「エンディングノート」を作成する	19	墓地・霊園を選ぶ・探す	36					

22





Copyright©2017 Research Institute for High-Life

連載第九回予定

「お金」(仮称)。

公益財団法人ハイライフ研究所